

# 中海しゅんせつくぼ地修復

## 行政の積極的関与要望

松江のNPO

中海・宍道湖の環境改善  
に取り組む認定NPO法人



小谷哲也所長(左から2人目)に要望書を手渡す松本一郎理事長(中央) 出雲市塩冶有原町5丁目、出雲河川事務所

自然再生センター(松江市天神町、松本一郎理事長)がこのほど、国土交通省出雲河川事務所(出雲市塩冶有原町5丁目)で小谷哲也所長に中海しゅんせつくぼ地の環境修復で連携を強めていくよう要望した。

中海のしゅんせつくぼ地は、干拓・淡水化事業などに伴う陸地造成で湖底の土砂を掘り起こした跡で、貧酸素になりやすくヘドロ発生につながる。センターは2009年から中国電力の協力で、火力発電で生じる

石炭灰を利用した「H-1(ハイ)ピース」を覆砂し水質改善効果が出ている。

覆砂を継続することを念頭に、要望では島根、鳥取両県知事らでつくる中海会議でくぼ地修復の重要性の理解▽中海自然再生協議会と中海会議との情報共有・意見交換▽くぼ地の修復事業をセンターと連携して進める―を盛り込み、行政の積極的な関与を求めた。

小谷所長は情報共有、意見交換の必要性に理解を示した。

センターは、環境省大山隠岐国立公園管理事務所、島根、鳥取両県にも同様の要望をする。

(松本直也)